

農林水産大臣賞

たいけんこうりゅうかん
田舎の体験交流館さんがうら運営委員会（熊本県球磨村）

廃校活用を起点とした、地域資源の魅力発信と体験プログラムにより、山村空間を商品化。

1. 地区の概要

三ヶ浦地域がある球磨村は熊本県の南部に位置し、総面積の約9割を森林が占め、農林業が主産業であり、日本三急流のひとつ「球磨川」や九州最大級の鍾乳洞「球泉洞」をはじめ、日本棚田百選の「松谷棚田」「鬼ノ口棚田」等の観光資源を有している。

2. 団体の概要

運営委員会は行政、各区長、女性代表、棚田保存会等で構成され、田舎の体験交流館さんがうらの運営のほか、地域イベントや各種体験等の開催を観光協会や大学等と連携して実施している。

3. 団体の取組み

- 宿泊・飲食業をベースとしながら、様々な農林業体験や食の加工・野外体験等メニューを開発し実践。山村空間が持つ価値や魅力をSNS等で効果的に発信し、交流人口増加に繋げている。
- 松谷棚田（日本棚田百選）では、棚田オーナー制によって宿泊者や体験参加者が増加。米生産者の生産意欲の高まりとともに棚田景観の保全にも寄与している。
- 交通弱者、買い物弱者への支援として弁当配達や生活用品等の移動販売を開始。高齢世帯の見守りを兼ねている。
- つるし柿（干し柿）づくり、どんどや等の集落行事・地域ぐるみイベントのプログラム化は、廃校で住民が抱いた喪失感を一掃させ、住民の協力体制の再構築と高齢者の生きがい創出に繋がっている。
- 農村空間の商品化と観光コンテンツ化をDMO法人の設立に繋げ、球磨村全域に波及している。
- 令和2年7月豪雨により球磨村は大きな被害を受け、村内各地の道路の崩落や落橋等により、三ヶ浦地域は一時孤立状態となったが、田舎の体験交流館さんがうらは避難者の受入や支援物資の拠点として機能を果たし、在宅避難者に向けて移動販売もいち早く再開した。



松谷棚田での稲刈り



移動販売の様子



つるし柿（干し柿）づくり体験の様子